

第Ⅱ章

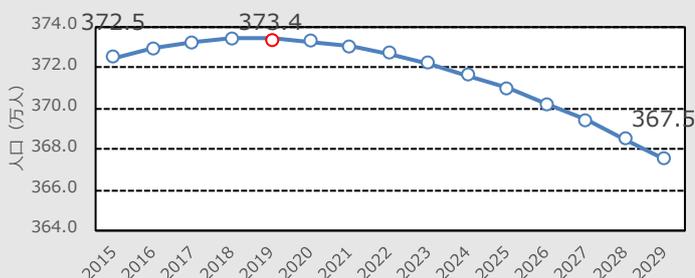
自転車利用の現状と課題

1. 人口・地勢

① 人口

- 本市の人口は約 374 万人です。
(2018年11月1日現在の推計 3,741,765人)
- 将来人口は2019年頃を境に減少に転じると推計されています。

■ 横浜市の人口推移 (推計値)



【出典】横浜市政策局ホームページ 横浜市将来人口推計より作成
※2015年(国勢調査)を基準時点とした推計結果

② 都市計画道路の整備の状況

- 本市では、市域面積に占める都市計画道路の割合や、その整備率が、他の政令市等大都市に比べて低くなっています。
- 道路整備の進捗状況に対して、自動車の交通量が多く、他の大都市に比べても混雑している状況にあります。

■ 都市計画道路の整備進捗率 (政令市 20 市及び東京都特別区)

	道路網密度 ^{※1}		整備率 ^{※2}
	計画延長	整備済	
横浜市 (21 都市中順位)	1.66km/km ² (21 位)	1.15 km/km ² (21 位)	67.5% (20 位)
参考：第 1 位都市	【札幌市】 2.92 km/km ²	【札幌市】 2.83 km/km ²	【札幌市】 96.3%

※1 道路網密度：各都市の市街化区域面積に対する幹線街路延長

※2 整備率：各都市の都市計画道路計画延長に対する整備済延長

【出典】2015 年都市計画年報より道路局作成

■ 横浜市の【平日】の道路交通状況

	12 時間交通量	混雑度 ^{※3}	旅行速度 ^{※4} (混雑時)
横浜市	23,900 台	0.99	18.0km/h
大都市平均	15,158 台	0.83	21.2km/h
全国平均	5,892 台	0.64	32.8km/h

※3 混雑度：道路の交通容量に対する実交通量。大きいほど「混雑」している状態

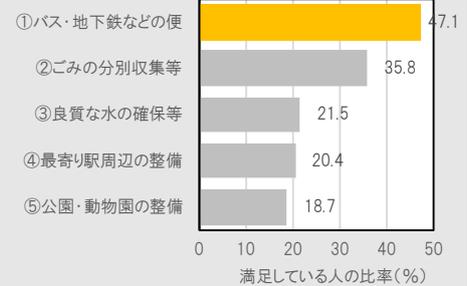
※4 旅行速度：混雑時の自動車の速度。小さいほど混雑で速度が出せない状態

【出典】2015 年度道路交通センサスより道路局作成

③ 地形と鉄道ネットワーク

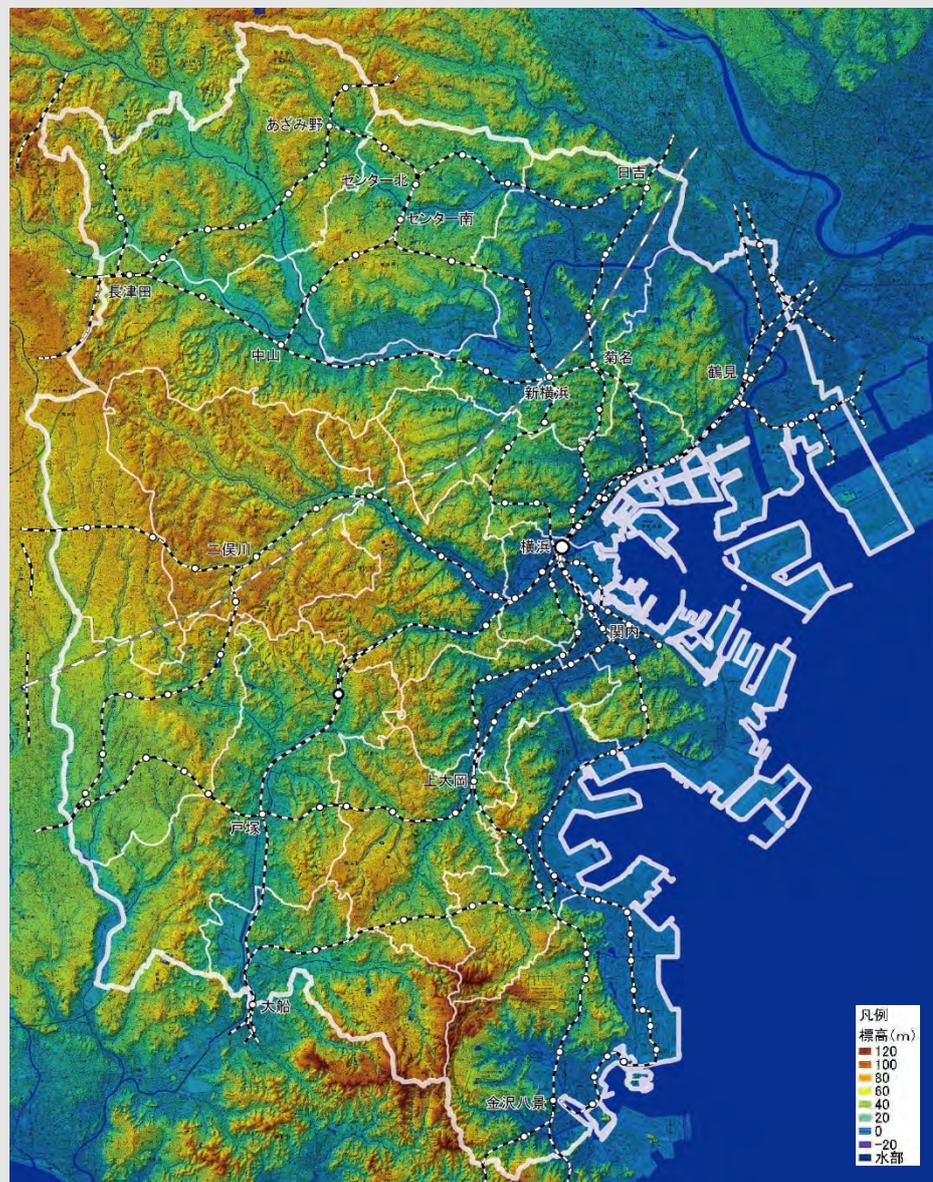
- 本市は総面積 435.4km²(第96回横浜市統計、2018年3月)の市域を有し、臨海部から内陸部にかけて起伏に富んだ都市です。
- 2018年に公表された市民意識調査によると「あなたが満足している公共サービス」の46施策のうち、【バス・地下鉄などの便】の満足度が全施策の中で最も高くなっています。(満足度 47.1%)

■ 市政への満足度 (46 施策のうち上位 5 位まで)



【出典】 横浜市民意識調査 (2018 年度) より作成

■ 横浜市の地形と鉄道ネットワーク



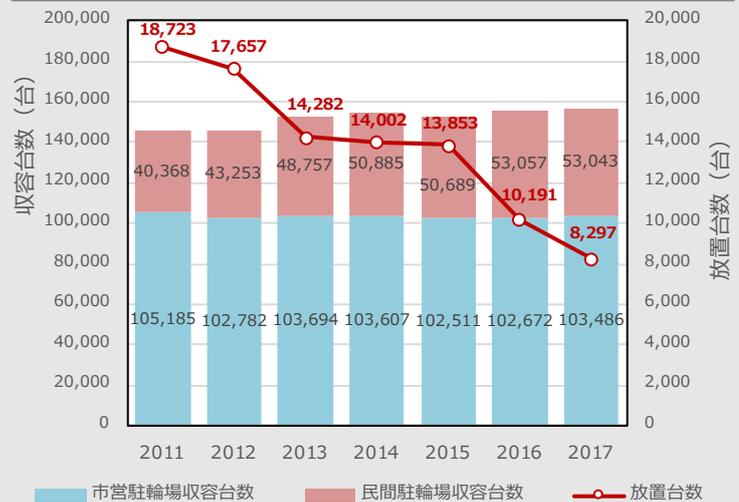
【出典】 国土地理院「デジタル標高地形図」(2018年)より作成

2. 自転車の利用環境

① 市営・民営駐輪場の収容台数と放置台数の推移

- 市では鉄道駅に集まる駐輪ニーズに対応するため、市営駐輪場の整備を進めてきました。また、民営駐輪場の整備も進んでいます。
- その結果、2017年時点では駐輪場の収容台数は約15万6千台となっています。
- これに合わせて、放置自転車の移動作業などを進めたことで、2011年に約1万8,700台あった放置自転車台数は、2017年には8,297台まで減少しています。

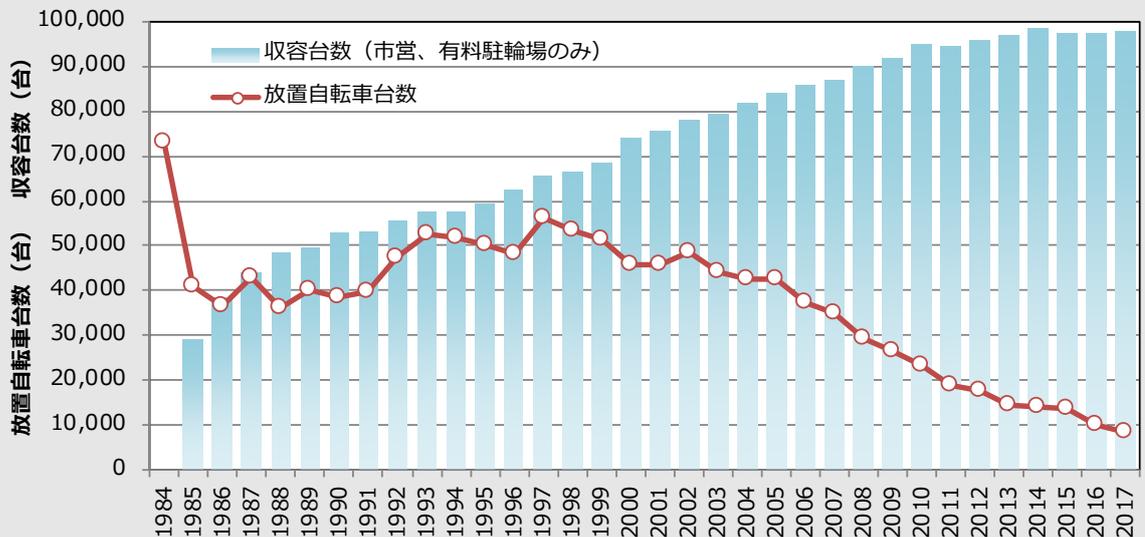
■ 駐輪場の収容台数と放置自転車台数の推移（直近7年）



【出典】 横浜市道路局

「横浜市内鉄道駅周辺放置自転車等実態に関する調査」（2011～2017年）より作成
 ※市営駐輪場の収容台数は、有料+無料の収容台数の合算値

■ 市営駐輪場（有料）の収容台数と放置自転車台数の推移（長期）



【出典】 横浜市道路局「横浜市内鉄道駅周辺放置自転車等実態に関する調査」（1984～2017年）より作成
 ※市営駐輪場の収容台数は、有料施設の収容台数のみ（無料施設は含まない）

② 放置自転車の状況

- 放置禁止区域が指定されている 115 駅の放置自転車台数計 8,297 台（2017 年実績）について駅別の内訳をみると、伊勢佐木長者町駅・関内駅での放置自転車が多くなっています。
- 鉄道駅利用だけでなく、駅周辺の商業施設等の買い物利用も、放置の要因となっています。

■ 放置自転車台数の多い上位 10 駅（2017 年実績）

鉄道駅		放置自転車台数
1	伊勢佐木長者町・関内	1,296
2	石川町	436
3	横浜	403
4	阪東橋	266
5	鶴見・京急鶴見	243
6	元町・中華街	222
7	上大岡	197
7	綱島	197
8	日ノ出町	166
9	日吉	152
10	戸塚	137

【出典】横浜市道路局「横浜市内鉄道駅周辺放置自転車等実態に関する調査」（2017 年）より作成

③ 市営駐輪場の設置状況

- 市営駐輪場は、主に駅前の放置自転車対策として整備を進め、平日 10 万台を超える利用があります。
- 自転車の利用割合は 72.5%、バイク（原動機付自転車、自動二輪車）の利用割合は 27.5%です。

■ 市営駐輪場（有料）の設置状況

設置状況		2017年実績
設置駅数		98駅（137駅中）
駐輪場施設数	平面式	187施設
	建物式	55施設
利用台数（平日）	自転車	74,303台（72.5%）
	バイク	28,234台（27.5%）

横浜市道路局資料

④ 市営駐輪場の維持・管理

- 急速な鉄道網の発達と、それに伴う周辺開発による人口増加に合わせて、放置自転車問題へ対応するために整備されてきた駐輪場は、現在多くの施設で老朽化が進みつつあります。

■ 施設老朽化の状況（施設内階段の破損）



■ 市営駐輪場（建物式）の整備年数

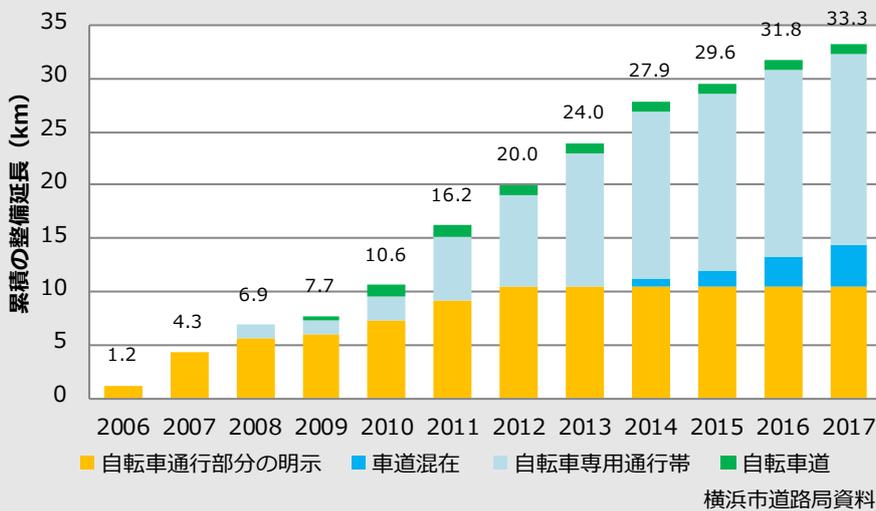
経過年数（2018年時点）	対象施設数（施設）
築10年以内	11
築10年超～20年以下	13
築20年超～30年以下	10
築30年超～	21
計	55

横浜市道路局資料

⑤ 自転車通行空間の整備の進捗

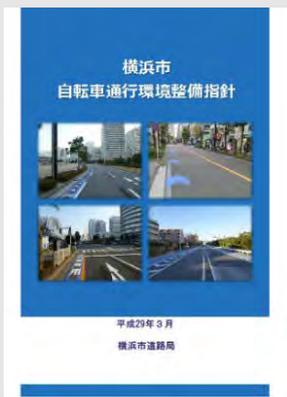
- 市ではこれまでに、みなとみらい 21 地区や鶴見駅周辺など自転車利用の多いエリアを中心に、2017 年現在 33.3km の自転車通行空間を整備しています。
- 地域内での面的な通行環境整備を進めるため、2017 年に自転車通行空間の整備に対するガイドラインとなる「横浜市自転車通行環境整備指針」を策定しました。
- これに基づき、自転車利用の多い戸塚駅、鶴見駅を重点エリアとして指定し、地域や関係機関との調整を経て合意形成を図り、整備を進めています。
- 港北ニュータウン及び都心臨海部についても、重点エリアとして検討、整備を進めています。

■ 自転車通行空間の整備延長の推移



■ 自転車通行環境整備指針

- 重点エリアの指定や整備の考え方等を示した技術指針。(2017 年策定)

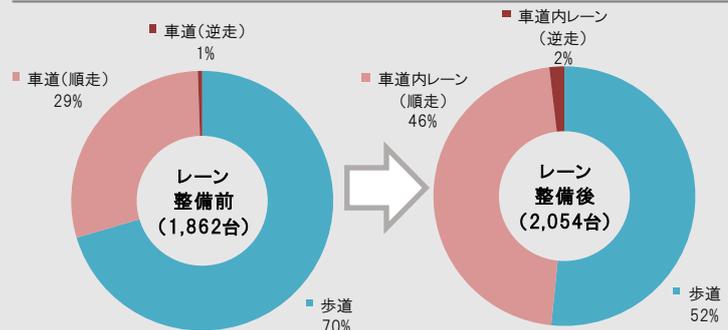


■ 国際大通りの自転車専用通行帯の整備

- 2012 年度にみなとみらい 21 地区の国際大通りに総延長約 1.4km の自転車専用通行帯を整備
- 整備前後の土曜日において、自転車の断面交通量を調査
- 整備後に車道の自転車交通量が増加し、歩道の自転車が減少



■ レーン整備前後での通行場所の変化



【出典】国際大通り通行空間整備前後での交通量調査より作成
(整備前 2012 年 8 月 25 日(土)、整備後 2012 年 10 月 27 日(土)に調査を実施)

⑥ コミュニティサイクルの普及

- 全国に先駆けて本格導入を進めた横浜都心部コミュニティサイクル「ベイバイク」は、みなとみらい21地区を中心としてサービスを展開しています。
- ポート数の増加やサービスエリアの拡大に伴い、利用者は年々増加しており、2018年11月現在、ポート数74箇所（自転車約770台）、会員数約86,000人となっています。
- 西区の既成市街地や中区の本牧にもポート設置が進み、サービス提供範囲も広がりを見せています。



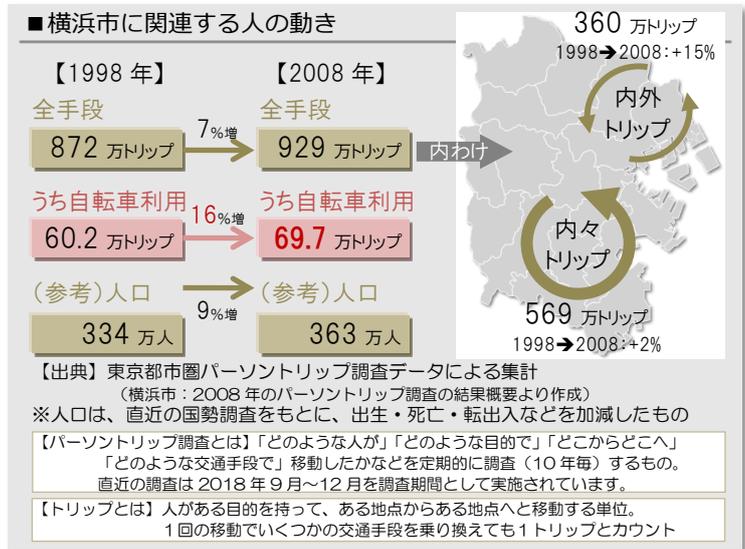
■ 「ベイバイク」ポートマップ



3. 自転車の利用状況

① 自転車利用の増加

- 市内での自転車の移動量は 1998 年～2008 年の 10 年間で約 16%増加しています。この数値はこの間の人口の増加率 9%を大きく上回っています。人口が増加した現在では、さらに多くの自転車の移動が発生していると考えられます。

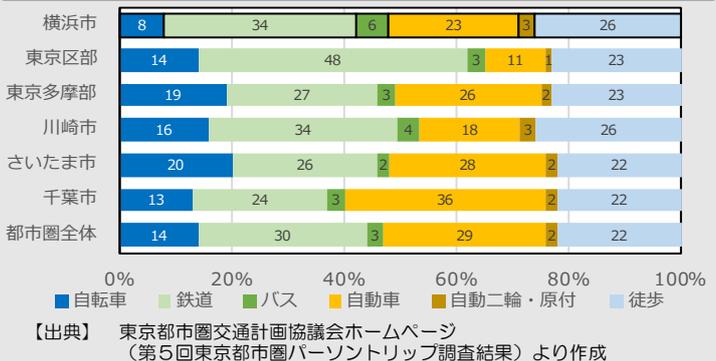


② 自転車の利用率

【横浜市と他都市の比較】

- 市内で行われる全ての移動量のうち、自転車を利用する割合は約 8%です。(2008年時点)
- 東京都市圏の他都市では、自転車の利用率は 13～20%程度であり、横浜市の自転車利用率は低めです。

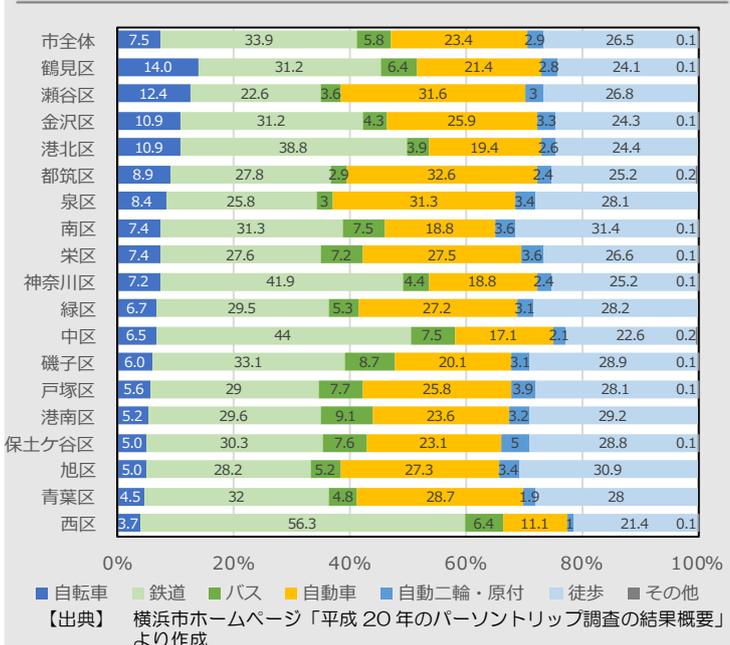
■地域別の代表交通手段分担率（横浜市と他都市の比較）



【区別の自転車利用率の違い】

- 各区での自転車を利用する割合は、鶴見区、瀬谷区、金沢区、港北区の順に高くなっています。
- 一方で、鉄道利用が多い西区や、青葉区、旭区など高低差のある内陸部の区では、自転車の利用率が低くなっています。
- 区ごとに自転車利用率に差が見られます。

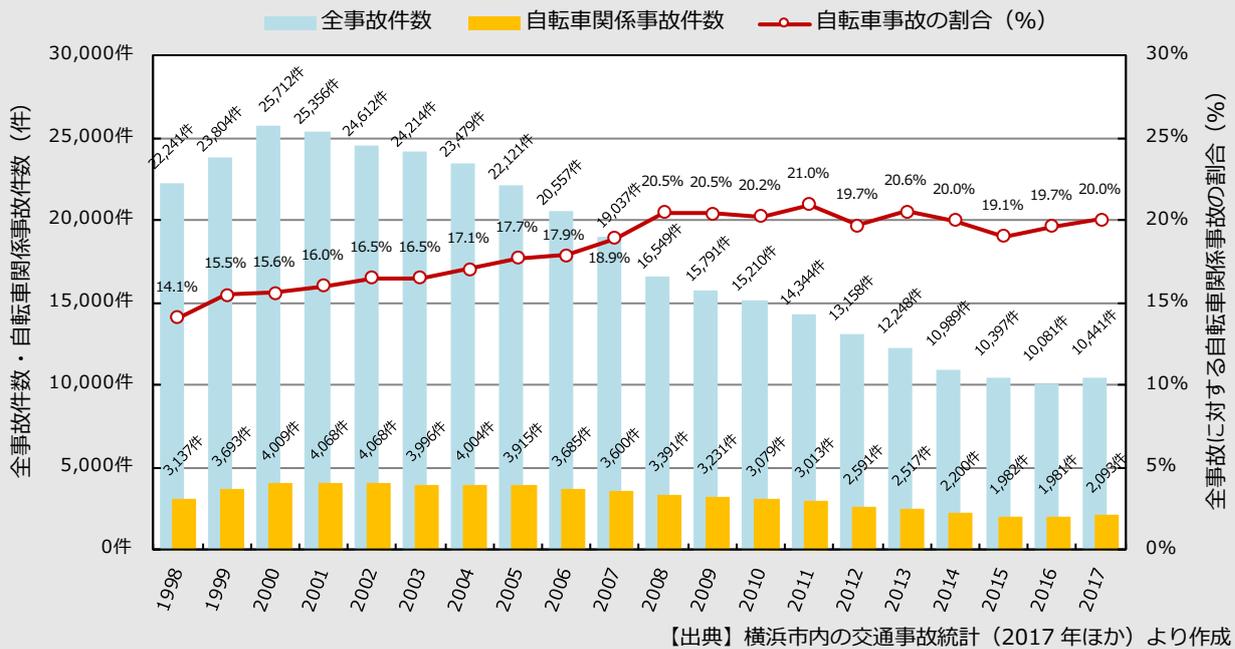
■市内の区別の代表交通手段分担率（自転車分担率の高い順）



③ 自転車関係事故の推移

- 本市の自転車事故は、自動車を含む全事故の傾向と同様、減少傾向が続いてきました。
- ただし、自転車事故は全事故の減少量に比べて下げ幅が小さくなっており、全事故に対する割合は約 20%前後を推移している状況です。

■ 横浜市内の全事故・自転車関係事故の推移

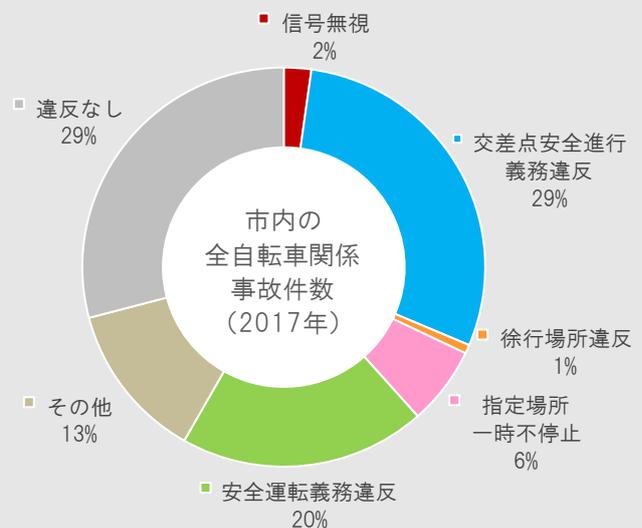


④ 自転車関連事故※1 の特徴

※1 自転車関係事故のうち、自転車が第1・第2当事者となった事故をいう。ただし、自転車相互は1件とする。

- 2017 年に市内で発生した自転車関連事故のうち、約 70%に自転車側の違反があります。
- 特に交差点での安全進行義務違反や、安全運転義務違反による事故件数が多くなっています

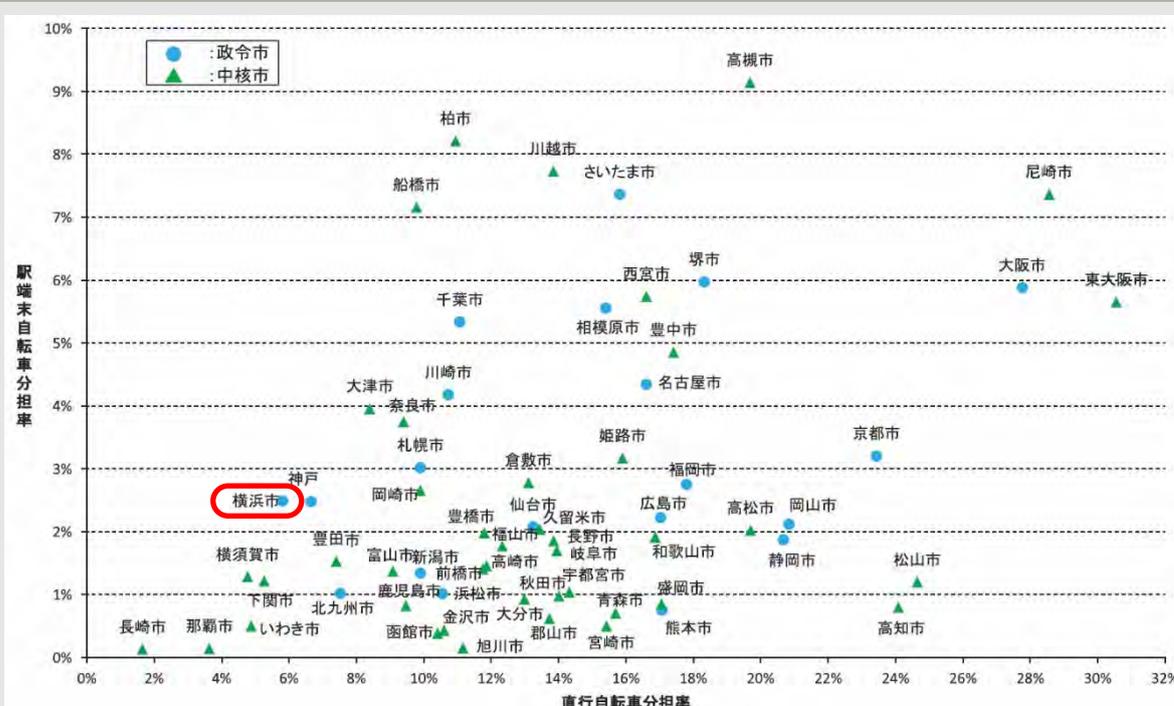
■ 横浜市内の違反種別の自転車関連事故の件数



⑤ 通勤・通学での自転車利用

- 全国の政令市、中核市での、「通勤・通学」の際に「電車に乗るため駅に向かう場合」と、「目的地に直接向かう場合」での「交通手段に自転車を選択する傾向」を各分担率として整理し、散布図に示したものが以下のグラフです。（右側、上側に位置するほど、自転車を選択する傾向が強い自治体）
- 本市は、地形的に坂が多いことや公共交通が充実しているなどの状況から、全国の自治体と比べて、通勤・通学の際に「駅に行く場合」、「目的地に直行する場合」、ともに移動手段として自転車を選択する傾向が低い都市となっています。

■通勤・通学時の「駅端末自転車分担率」と「直行自転車分担率」の関係（政令市、中核市）



※駅端末自転車分担率：電車を利用するため、出発地から駅（駅から目的地）に移動する全交通量のうち、自転車を利用した交通量の比率

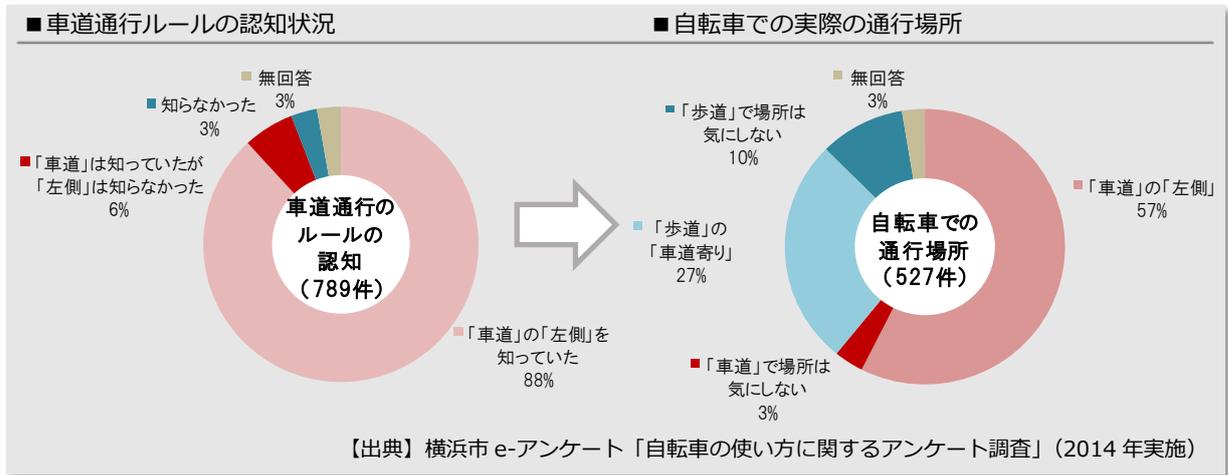
※直行自転車分担率：出発地から直接目的地（通勤、通学先）に移動する全交通量のうち、自転車を利用した交通量の比率

【出典】公益社団法人日本交通計画協会「都市と交通」通巻 94 号（2013 年 10 月発行）のうち特集論文（国土交通省 都市局 街路交通施設課 東氏）より引用（※データは 2010 年度 国勢調査より作成）

4. 自転車の活用に向けた課題

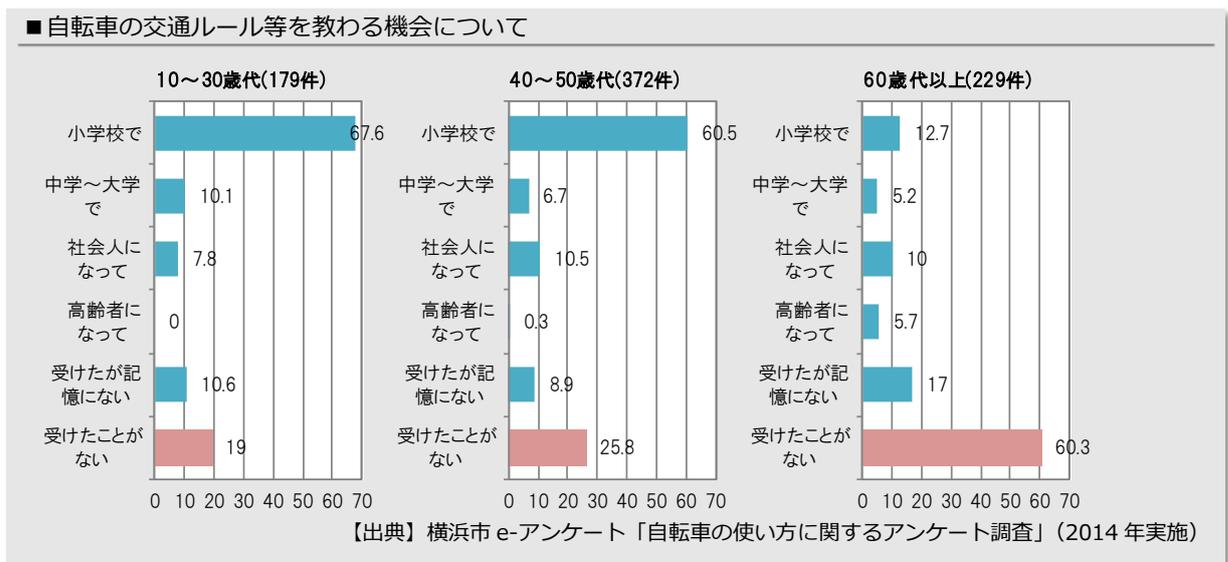
① 自転車交通ルール認知度と利用状況のギャップ

- アンケート調査によると、「自転車は車道の左側を通行」するルールについて、約9割が知っていると回答していますが、実際に車道の左側を通行すると回答した人は約6割となっています。



② 交通安全教育の機会の不足

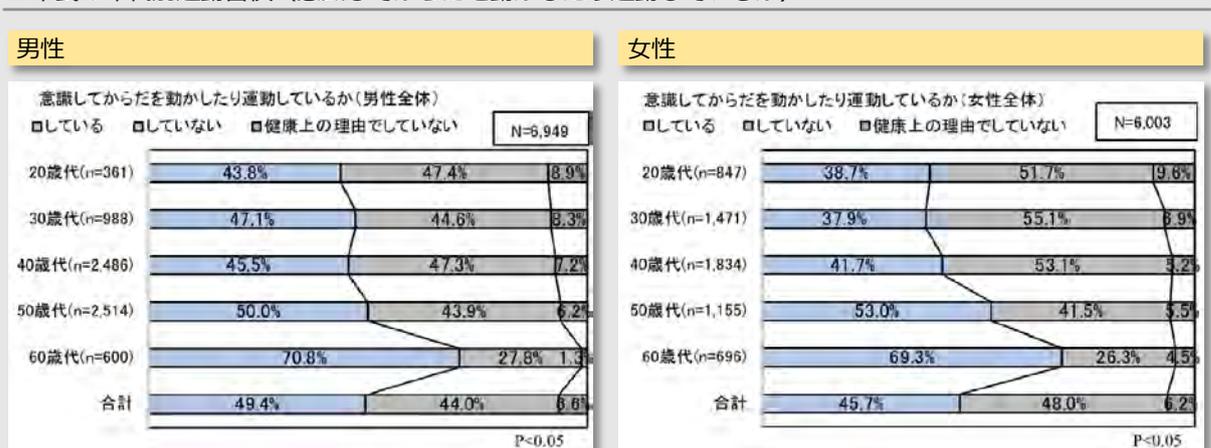
- アンケート調査によると、50 歳代までの回答者では小学校での受講経験が 6~7 割となっています。また、60 歳代以上では、「受けたことがない」が 6 割を超えています。



③ 健康づくりに対する意識

- 市が2018年に公表した「第2期健康横浜21 中間評価報告書」によると、意識して体を動かしたり、運動している人の比率が、若い世代ほど低くなる傾向があります。

■ 市民の年代別運動習慣（意識してからだを動かしたり運動しているか）



【出典】横浜市「第2期健康横浜21 中間評価報告書」（2018年）

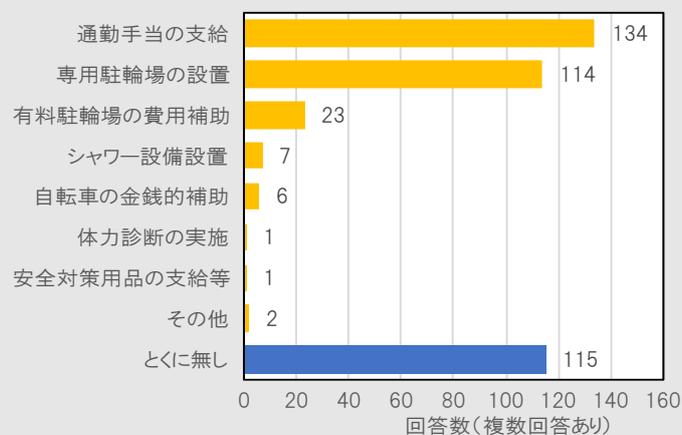
④ 企業側の自転車通勤に対する考え方

- 近年、自転車通勤が増えつつあり、公益財団法人日本交通管理技術協会が全国1,016社を対象に調査した結果では、約85%の企業が自転車通勤を承認しています。
- 一方で、自転車通勤の支援に関しては通勤手当の支給、駐輪場の設置が進められているものの、支援策は「とくに無し」の企業も全体の36%となっています。

■ 自転車通勤の承認状況（全国386社回答）



■ 自転車通勤者に対する支援（全国320社回答）

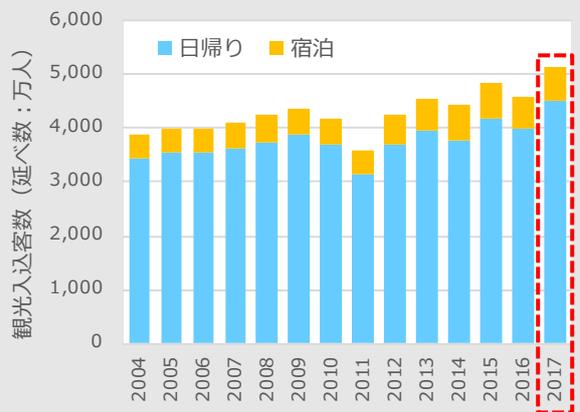


【出典】公益財団法人日本交通管理技術協会「事業所における通勤用等自転車の安全利用対策の実態把握に関する調査研究・自転車の利用に係る企業行動調査アンケート」（2017年3月）より作成

⑤ 国内外からの観光ニーズ

- 本市は全国有数の観光資源、集客施設等を有する、国内外からの観光ニーズが高いまちです。市の観光入込客数は年々増加しており、2017年には年間5,000万人超の観光客が訪れました。みなとみらい21地区など都心臨海部への来訪者が大半を占めています。
- 都心臨海部では、快適に回遊し目的地へより円滑に移動できるよう、コミュニティサイクルの強化・拡充や、自転車を安全で快適に利用するための環境整備を進めていくこととされています。

■ 市内観光入込客数の推移（左）と主要な観光施設別の入込客数（右）

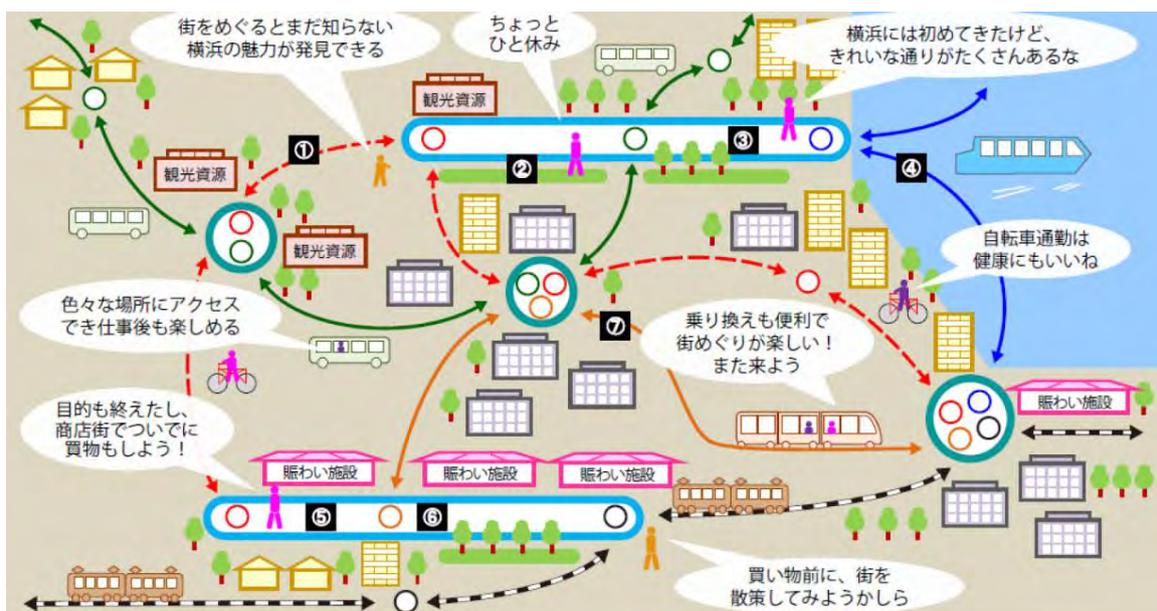


観光施設ごとの内訳は…

地区名	入込客数(万人)
宿泊	
鶴見周辺	40
みなとみらい・桜木町	182
山下・関内・伊勢佐木町	211
磯子・金沢	9
その他	178
(宿泊小計)	619
日帰り	
観光施設	2,527
鶴見周辺	61
みなとみらい・桜木町	1,108
山下・関内・伊勢佐木町	352
山手・本牧・根岸	200
磯子・金沢	343
その他	464
観光交通機関	167
観光イベント	1,829
(日帰り小計)	4,524
2017年 全体合計	5,143

【出典】 横浜市文化観光局「横浜市観光集客指標」（2017年及び2012年）より作成

【参考】 都心臨海部の回遊イメージ



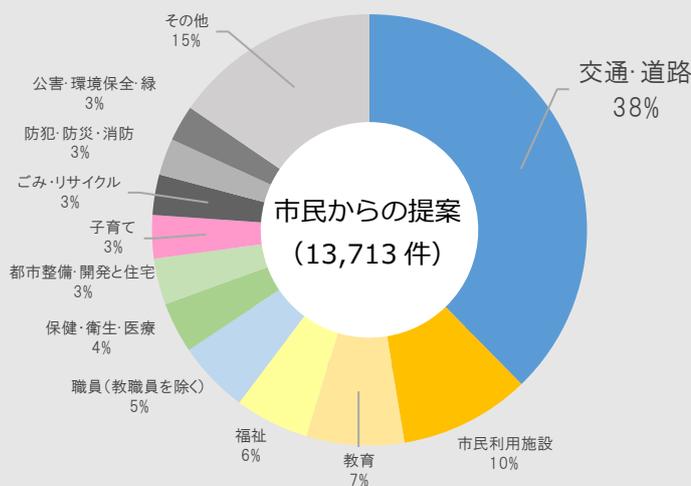
【出典】 横浜市都心臨海部再生マスタープラン（2015年）

自転車に関する市民要望

横浜市では、市政へのご意見・ご要望等を「市民からの提案」として受付けており、2017年度の1年間で13,713件のご意見が寄せられました。このうち、「交通・道路」に関するご意見は38%（5,168件）でした。

「交通・道路」5,168件のうち、自転車関連のご意見やご要望は441件あり、放置自転車や駐輪場関連、自転車の通行環境改善、自転車の交通安全啓発に関するご意見・ご要望を、多くいただいています。

■ 「市民からの提案」意見の種別割合（2017年度）



■ 「交通・道路」意見の細項目と内訳

交通・道路の細項目		意見の内訳	
		自転車関連	その他
鉄道	1,264	2	1,262
バス	2,080	35	2,045
道路	1,304	139	1,165
駐車・駐輪	237	185	52
交通安全対策	185	72	113
総合交通対策	98	8	90
総計	5,168	441	4,727

※自転車関連：意見要旨に「自転車」や「駐輪」がキーワードとして含まれたご意見等